

おおの議会だより

No.65

61.4.20



春を呼ぶ里神楽

○—————4月9日蕨生の垣安姫神社例祭で—————○

○————— 区民の無病息災と豊作を祈って —————○

○————— 里神楽が奉納されました。—————○

3月定例市議会

26議案を可決・同意

予算総額は141億5,000万円に

第221回定例会は3月10日招集され、会期を24日までの15日間と定め、前回から継続審議となっていた「昭和59年度大野市歳入歳出決算認定について」を認定。任期満了に伴う各委員会委員の改選が行われた後、市長の昭和61年度当初予算の提案理由説明があり、会期中理事者から提出の26議案を慎重に審議しました。その結果「昭和61年度大野市一般会計予算案」「大野市歴史民俗資料館設置条例案」など、全議案を原案どおり可決・同意しました。

また、最終日には議員全員協議会で協議した結果、全市民の要望である地域医療体制の整備に向けて、側面から研究を進めるため、議員全員で組織する「地域医療推進会議」を石蔵議長を会長として発足することになりました。

市民の皆さんから出されました請願・陳情は別掲のとおりです。

10日	本会議（会期の決定、継続議案採決、常任委員会委員の改選、議案上程、提案理由の説明）
11日	本会議（提案理由の説明）
12日	本会議（代表質問）
13日	本会議（一般質問）
14日	本会議（一般質問、追加議案、請願・陳情上程、各案件委員会付託）
17日	} 委員会（建設・産業経済）
18日	
19日	} 委員会（総務・教育民生）
20日	
22日	委員会（教育民生）
24日	本会議（各委員長報告 質疑・討論・採決）

第七十一号	第二十六号	第二十五号	第二十四号	第二十三号	第二十二号	第二十一号	第二十号	第十九号	第十八号	第十七号	第十六号	第十五号	第十四号	第十三号	第十二号	第十一号	
昭和五十九年度大野市歳入歳出決算認定について	人権擁護委員候補者の推薦について	昭和六十年大野市南部第二土地区画整理事業特別会計補正予算（第五号）案	昭和六十年大野市老人保健特別会計補正予算（第三号）案	昭和六十年大野市国民健康保険事業特別会計補正予算（第四号）案	昭和六十年大野市一般会計補正予算（第六号）案	昭和六十年大野市国民健康保険事業特別会計補正予算（第五号）、六十年大野市第二特別会計補正予算（第四号）案	大野市道路線の認定、変更及び廃止について 専決処分の承認を求めることについて（六十年大野市一般会計補正予算（第五号）、六十年大野市第二特別会計補正予算（第四号）案）	大野市道路線の認定、変更及び廃止について 大野市道路線の認定、変更及び廃止について	大野市国民健康保険条例の一部を改正する条例案	大野市国民健康保険条例の一部を改正する条例案	大野市国民健康保険条例の一部を改正する条例案	大野市立集会所設置条例の一部を改正する条例案	大野市立学校設置条例の一部を改正する条例案	大野市幼稚園入園料、保育料徴収条例の一部を改正する条例案	大野市行政改革に伴う関係条例の整備に関する条例案	大野市農村集落多目的共同利用施設設置条例案	大野市産業文化展示館の設置及び管理に関する条例案
認定	同意	同意	同意	同意	原案可決	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	承認	

市政をきく

代表・一般質問から



市長の政治姿勢 について

61年度予算編成 について

問 61年度予算は市長2期目の最終年の予算である。この8年間を振り返ってみると、都市計画事業や医療問題の充実等の面で特に進展がみられ評価できる。

新年度予算は国の高率補助金の引き下げという厳しい財政下である中で、6.8%増と力強く前向きの編成になっているが、どこに重点をおいたのか。

答 予算編成に当たっては、高率

補助の削減という大変厳しい状況下であるので、特に健全財政の堅持を基本とした。

今後も市民のニーズに応じ先行きを十分見通して、財源を有効に使うとともに各事業に公平に配分したい。

特にこれまでは人づくりに重点をおき、教育施設の整備等に最大の努力をしてきた。今年度は上庄中学校舎を建設したい。

医療についても公的医療施設問題や夜間診療問題など、市民に安心してもらうため、今後も医師会と十分話し合って進めたい。

問 政治家として必要なことは決断と実行であり、かつ積極的な運営と計画的な執行である。最近当市へ進出を希望する企業があったにもかかわらず、市の積極的な取り組みの不足から難しくなったりまた、大野の某企業が勝山へ進出するというような話を聞くが、実情はどうか。また、公的医療機関の設置は市民の最も強い要望であるが、数年前にある公的機関の病院が当市へ来てほしいという話があったようであるが、事実なのか。

問 今月末で真名川の水の契約は更新されるが、かんがい期でない10月～3月までが一番水に困っている時期なので、少しでもこの量を増やしてもらう方法はないのか。

答 企業誘致の問題については用地確保が難行した。せめてもう1ヵ月早く地元の了解が得られれば調印できたのではないかと思う。

勝山へ進出する企業については大型トレーラーが入れる所で、新たな設備を造って大野でやっていない仕事をしたいということであるが、これについても、市内での用地交渉に私も出向いたが、地元の了解が得られなかった。

病院の進出についての相談は二・三回あったが、県医師会の猛烈な反対があったのと、幹部の方からも直接私に対して話があったので断わった。

水の問題については現在、水資源対策室で国・県へ要望するための調査を進めている。冬期間の水問題については別途配慮してもらうよう、県等の協力を願いながら対処していきたい。

議案等の審議結果

議案番号	件名	結果
第一号	昭和六十一年度大野市一般会計予算案	原案可決
第二号	昭和六十一年度大野市国民健康保険事業特別会計予算案	原案可決
第三号	昭和六十一年度大野市老人保健特別会計予算案	原案可決
第四号	昭和六十一年度大野市簡易水道事業特別会計予算案	原案可決
第五号	昭和六十一年度大野市南部第二土地区画整理事業特別会計予算案	原案可決
第六号	昭和六十一年度大野市水道事業会計予算案	原案可決
第七号	大野市歴史民俗資料館設置条例案	原案可決
第八号	大野市視聴覚ライブラリー設置条例案	原案可決
第九号	大野市言語障害児治療教室の設置及び管理に関する条例案	原案可決
第十号	大野市家庭奉仕員派遣手数料徴収条例案	原案可決

商工振興について

問 最近、町内の商店がスーパーの価格と競争できないため、ポツリポツリと消えていき、このままいくと魚屋・肉屋・果物屋等は数軒になってしまう恐れがある。これらの商店が生き残るようにするため、行政として手助けが必要だと思う。

大野を根拠地として勝山市・和泉村・白鳥町の一部・美山を含めると、150億円程度の需要量になると思うので、広域的な考え方のもとに卸売市場が必要と考えるがどうか。

答 卸売市場については現在、大野・勝山地区広域行政事務組合で京都市の農業開発研修センターに委託して調査中である。

この調査は奥越地域の生鮮食料品の流通機構整備の基礎となる人口と交通条件から、需要の現状と将来の見通し、小売業者や業務利用者の仕入れに関する実態と分析等の各項目にわたっている。

また、広域事務組合として奥越地区における生鮮食料品の流通の円滑化と価格の安定を図り、住民の生活の安定と向上のために、昨年8月に関係業者と関係市町村で研究会を設置して話し合いを進め



スーパーに押されて数が減ってきた果物屋



駐車場不足等を解消し活性化が望まれる商店街

ているが、この問題は見通しが明るくない実状である。

ご指摘のように業界が弱いということもあるので、行政として手伝いすべき点があれば積極的に取り組みたい。

商店街の活性化について

問 当市は商圏人口の増加がほとんど望めず、都市機能もドーナツ化現象を生じている。

商店街の内部環境をみると、道路が狭い上に駐車場が不足し、商業施設も郊外型になってきておりもはや商業者自身で解決できない現状である。

行政や消費者を含めた町づくりという観点に立って、商店街の活性化を図る必要があると思うが、どうか。

59年度に創設した商業振興基金制度は、その果実（利子）が200余万円になっていると思うが、基金が目標の1億円になるまで果実はそのままにしておくのか。

答 市街地のドーナツ化現象が昨今特に進んでおり、商店そのものが東方へ移っていく傾向である。

どこの城下町をみてもこうした現象が起きているようだ。

長期的な視野に立った計画を考

えなければならない時期だと思うので、本年度は“町づくり対策特別事業計画”の調査費を計上した。

商業基金は、まだ目標の1億円には達してないが、果実が生じているので商工審議会等の意見を聞き、効果的に使いたい。

地域住宅計画について

問 当市は建設省から地域住宅計画の指定を受け“良好な住宅や市街地の形成”“地域住宅文化の育成”“地域住宅政策の振興”の3つを柱として進められる予定であるが豊かな緑と地下水を利用した住宅環境の整備、歴史的な町並みを維持しながら大野らしい住宅文化の育成等をどのように進めるのか伺いたい。

答 地域住宅計画については今後計画書に基づいて、21世紀に向けての旧市街地・新市街地や農村周辺地区の住宅のあり方等についてシンポジウムを開いたり、リーフレット等を配布するなどして市民の理解を得よう努めたい。

あくまでも個人資産の問題であるので、行政が直接的にどうこうすることはできないが、大野に望ましい住宅、雪に強い町づくり等を目指したい。

国民健康保険事業 について

問 国民健康保険財政は年々悪化しており、本年度は財政調整基金から7,300万円を、一般会計から2,500万円をそれぞれ繰り入れて収支の均衡を図っている。今後もこのような状態が続けば、さらに保険税の値上げを余儀なくされ、市民は税負担の限界に達する恐れがあるので、一般会計から大幅に繰り入れて、税負担の軽減を図ることが必要と思うが、所見を伺いたい。

答 当市の場合には特に75歳以上の人口が他市に比べて非常に多いということもあって、国民健康保険会計は非常に苦しい状況になっている。

本年度は財政調整基金からの取り崩しのほか、人件費相当分を一般会計から繰り出している。しかし、これにも限界があるので応分の負担引き上げはやむを得ないと考える。

観光と産業について

問 今や国際化時代であるが、発展途上国の追い上げや円高不況の



恵まれた河川を利用して多くの釣り客を誘致したい

「地域医療推進会議」を発足

全議員で構成、議長が会長に

地域医療体制の整備は全市民の切なる願いであり、市議会としてもこの問題に対しより積極的に取り組むため、この程、議員全員による「地域医療推進会議」を発足させました。

地域医療問題については既に地域医療協議会の設置や、休日急患診療所の開設などによって前進はしているものの、公的医療機関の見直し等について市民の不安解消には程遠いものがあります。

議会としてもこの問題の解決に積極的に取り組むため、3月定例会最終日の24日に全議員で構成する「地域医療推進会議」を設けました。今後は理事者・医師会等との意見交換の場をもちながら、地域医療体制の整備に向けて研修や研究をしたり、地域医療協議会へ提言をしたりすることにしています。

会長には議長が、幹事長には教育民生委員長が充て職として当たることになっています。



アラシのため、当市も極めて深刻な状態に追い込まれている。発想の転換をして繁栄策を考えなければならぬと思うが、観光を重点的施策に取り上げてはどうか。

レジャー人口で最も多いのは釣り人口であるが、幸い当市には恵まれた河川が多いので、これを利用することが得策だと思うが、どうか。その他、大野城周辺の整備と観光ルートの設定、荒島・宝慶寺の開発、森林公園の整備などが必要であるが、どうか。

答 従来の考え方を変えた視点に立って観光を考えることは大切だと思う。

釣り客用の観光パンフレットも作っていない状態なので、早く検討して力を入れていきたい。

森林公園については県・国等でもいろいろ考えているようであるので、市においても十分に振興方策を考えたい。

水源税について

問 水源税は目的税であるということから、森林組合の代表者がその創設を望んでいるようであるが市長の見解を伺いたい。

答 水源税は年限を切って目的税として検討されたが、まだ確定していない。

この税については、当初から農業用水については課税しないという考え方である。当市のように山林を多く保有している地域にとっては、水源の元になる山林の整備に金をまわしてもらえるので、決して反対すべきものでなく、歓迎すべきだと考えている。

人権擁護委員候補者

中村氏に同意

任期満了に伴う人権擁護委員候補者に、中村定一氏（不動堂第16号15番地、68歳）を推薦することに同意しました。

当市にマッチした教育と福祉について

問 教育は学校教育・家庭教育・社会教育に、福祉は子供の福祉・家族の福祉・社会の福祉・児童福祉などに分けられると思う。

しかし、今のシステムでは教育委員会は独自の教育を進めており社会福祉は福祉関係者ばかりで進めているようであるが、密接な連携をとることが大切であると思うが、どうか。

また、今回南部第二土地区画整理区域内に体育館の建設を予定しているが、総合的な体育施設が望まれる中で、このように別々に建てた方がよいのか。

答 教育の目指す決勝点は1人ひとりの福祉であり、福祉が充実した人々のいる社会の問題でもあるので、教育と福祉は別々の姿のようであってはならないと思う。

今後「生涯学習センター」を中心に縦横のつながりをもたせながら総合的に進めたい。

体育施設の複数化は好ましくないが、用地確保等の問題で総合的な施設の建設は難しい状況である。

これ以上建設年度を遅らせたくないの、やむを得ずこの地域に体育館を建設したい。



水の有効利用を図るため今年度水路体系の実態調査が進められる

水行政と地下水保全について



問 今冬は降雪が早かったもののその後は比較的平穏であった。一方、市街地については流雪溝が整備され河川流入量も多くなった。もし集中的な降雪があると、これまで以上に家屋浸水の発生が予想されるが、どのような対策を考えているのか。

また、当市の場合工業用水はすべて地下水に依存しており、その

保全のために量水計を取り付けたり、再循環利用装置を設置しているが、精練や染色等の企業は別としてその他の企業は表流水の使用も可能だといわれる。これが可能だとすれば地下水使用の軽減に役立つ上、循環装置よりもコスト安になると思うが、どうか。

地下水の保全対策として各家庭に浸透枳（しんとうき）を設けて、雨水の地下浸透で効果を挙げている都市があるが、いかがか。

答 市街地へ流入する水量も用水の整備によって相当増えている。

今後も土地改良等の協力を願いながら、できるだけ有効利用が図れるように水路の整備を進めたい。

そのため今年度も水路体系の実態調査や測量委託を行う予定である。今冬も浸水がみられたが水量が多すぎるためでなく、一時的な除・排雪によるものや、水路体系に問題があると思われるので、今後は排水のことも考えた水路を設けなければならないと考えている。

工業用水の使用量は地下水利用の中で最も多いので、これに表流水が利用できれば渇水期には非常に助かるので十分研究したい。

雨水利用による水源かん養については、必要経費もわずかであり効果もありそうなので検討したい。

請願・陳情審議結果

番号	件名	提出者	結果
請願1号	市道編入について	花房区長 前田 市松	採 択
請願2号	市道編入について	土布子区長 松本 一男 外9名	継続審査
請願3号	用水路の改良について	菖蒲池区長 石田 稔	〃
請願4号	市道拡幅及び一部新設変更について	小矢戸区長 石本 二男	採 択
請願5号	市道編入について	太田区長 森川 利男	〃
陳情1号	建築士会大野支部に対する助成について	(社)福井県建築士会大野支部長 玉木 鼎 外7名	継続審査

59年度歳入歳出決算を認定

第221回定例会初日の10日、前回の定例会から閉会中への継続審査となっていた「議案第71号 昭和59年度大野市歳入歳出決算認定について」は、決算特別委員会の審査報告があり、委員長報告のとおり認定しました。意見・要望の主なものは次のとおりです。



○国民健康保険事業について

昨今の医療費の増嵩は保険給付費の増大を招き、保険財政を圧迫している。この要因としては①被保険者が他の保険制度に比べて高齢者や低所得者が多く、かつ、年々その割合が増加している。②医療の高度化等に伴う高額医療費の支給額が急速に伸び、医療費全体を引き上げている③退職医療制度の導入によって国庫負担率が引き下げられた——などが挙げられる。

健全な運営のため、これまでのように保険税の大幅な引き上げが続けば、遠からず大多数が負担の限界に達すると思われるので、今後は極力一般会計からの補填を行って、税負担の軽減に努めるよう強く要望した。

○市税及び市営住宅使用料の滞納について

特別土地保有税は投機的な土地取

得の抑制を図るとともに、土地の供給と有効利用を促進するために創設されたものであり、この運用については通常土地取引や土地所有者に対し、過重な負担を強いることのないよう適正な事務処理が求められる。いま一度、納税義務者への的確なPRと指導を強化し、滞納額の一掃に努めるべきであるとの強い意見が述べられた。

また、市営住宅使用料の滞納者についても、提訴するなどの強い態度で臨むべきであると指摘した。

○各種研修会旅費の不用額について

て

最近の地方行政は複雑多岐にわたり、高度な専門性・技術性とともに、幅広い視野や豊かな知識が要求されている。

このような素養を身に着けるためにも研修会への参加は必要であるが、当初に計画した研修会等への出席者が少なく、多くの不用額を生じている。今後、あらゆる機会をとおして研修に対する認識を深め、意欲的に取り組むよう要望した。

昭和59年度歳入歳出決算総括表

(単位：円)

会計区分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	差引残額
一般会計	10,162,456,000	10,198,446,573	9,983,924,304	214,522,269
国民健康保険事業特別会計	1,615,664,000	1,616,521,810	1,612,708,352	3,813,458
老人保健特別会計	1,557,114,000	1,557,278,554	1,556,865,581	412,973
簡易水道事業特別会計	59,094,000	59,525,244	44,561,467	14,963,777
南部第二土地区画整理事業特別会計	280,021,000	280,740,653	277,711,200	3,029,453
合計	13,674,349,000	13,712,512,834	13,475,770,904	236,741,930

各委員会委員の改選

◎は委員長 ○は副委員長

●総務委員会

◎田原 哲也 ○西川 文人
兼井 藤波 石蔵 一郎
林 保信 宮本 弘
平間 源治

●産業経済委員会

◎野田幾久代 ○山口 忠男
藤田 護 幅口 登
羽生 長 推井 清男

●建設委員会

◎木下 境 ○大葭原 登
米村 喜六 齊藤 秀雄
奥村 忠光 山本 武

●教育民生委員会

◎松田 庄二 ○高津 靖生
飯岡彦兵衛 砂子 三郎
栄 正夫 杉本 夏男
高田新左衛門

●議会運営委員会

◎兼井 藤波 ○林 保信
飯岡彦兵衛 松田 庄二
西川 文人 齊藤 秀雄
奥村 忠光 山本 武

委員会報告

各委員長報告から

● 建設委員会

○新堀下水路整備工事について

この地域は地下水のかん養地帯として非常に重要な役割をもった場所であるので、工事施工に際しては周囲一帯の地下水に影響を及ぼさないよう、細心の注意を払うべきであると要望した。

○河川敷の借地料の支払いについて

道路敷や河川敷は買収が建て前であり、以前にも善処するよう指摘したが、今年度予算においても借地料が計上されており、当委員会の意見が反映されていない。

早急に解決して適正に管理するようにとの意見が述べられた。

○水道事業の適正運営について

当市の水道事業は給水率が当初計画の66%にも満たない現状であり、今年度も一般会計から9,767万円の繰入金計上されている。

今後もこのような状態が続けば一般会計に依存する度合いがますます増加し、大きな負担が強られることになるので、給水人口の拡大等を図るなど、一層の企業努力をして適当な運営に努めるよう強く要望した。



改修される新堀下水路



豊かな自然を整備した観光開発が望まれる

● 産業経済委員会

○観光行政の推進について

当市を取り巻く情勢は、基幹産業の構造的な不況や円高の影響のために大変厳しくなっているが、活力と魅力のあるまちづくり実現のために、今こそ観光行政を強力に進めることが重要な命題である。

このため、恵まれた自然や水環境を生かした保健休養施設やキャンプ場、民間主導によるスキー場等の軽スポーツ施設の整備を促進して、多様化する観光需要に対応しながら、通年型・滞留型の地域性豊かな観光リゾートの建設を目指すとともに、関係団体と密接な連携を取り、ハイセンスで効果的な宣伝活動をすべきであるとの強い意見が述べられた。

○工業団地の造成について

企業誘致を進めるためには、受け皿となる工業団地が不可欠であるが、この造成に対し取り組みが足りないように思われる。

第二次基本計画の中で、工場用地造成事業として38,000㎡の用地取得を計画しているが、この早期実現に向けて、全庁挙げて取り組

むべきであると指摘した。

○森林組合の指導・育成について

当市の豊かで恵まれた山林を生かし、新しい地場産業を掘り起こすことは最も重要な課題であり、これこそ当市にふさわしい有望な分野でもある。

そのため、経営基盤の弱い林業家は森林組合に大きな期待を寄せている。

森林組合はただ単に旧態依然の事業を消化するだけでなく、植栽から伐採までの長期的な展望に立った計画的・集団的な施業受託体制を確立しなければならない。

地域産業の振興と組合員の福祉向上のために、理事者はより積極的に行政指導をすべきであるとの意見が述べられた。

● 教育民生委員会

○教育施設の整備・充実について

「徳・知・体」の調和のとれた次代を担う児童・生徒を育成するために、教育施設の整備・充実については第二次基本計画にもうたっているが、特に小規模小学校の教育環境施設の整備・充実についても配慮されるよう要望した。